



妊婦さんへの接種が推奨または考慮されるワクチンのお知らせ

妊娠中にワクチンを接種すると、お母さんの抗体（免疫の一部）が胎盤を通して赤ちゃんへ届きます。そのため、生まれたばかりの赤ちゃんを感染症から守ることができます。



母子免疫



赤ちゃんの重症化を防ぐ重要なワクチン

定期接種

RSウイルスワクチン
(アブリスボ)

接種時期：妊娠 28週 0日～36週 6日

- RSウイルス感染症は、毎年流行し、ほとんどの方が2歳までに一度は感染します。
- 軽いかぜから重い肺炎まで様々ですが、特に生後6か月未満で重症化しやすいです。
- 赤ちゃんの頃の感染は、その後の反復性喘鳴や気管支喘息などの慢性的な病気とも関連します。
- 妊婦さんに接種することで、胎盤を通じて移行した抗体により、生後6ヶ月ごろまでの赤ちゃんのRSウイルス感染による下気道感染症や重症化のリスクを減らすことができます。
- 百日咳含有ワクチンと同時に接種が可能ですが、接種時期や組み合わせは妊娠週数や体調をふまえて主治医と相談してください。

任意接種

百日咳ワクチン

(三種混合ワクチン：DTaP、Tdap など)

接種時期：妊娠 28～36週

- 百日咳は、生後6か月未満の赤ちゃんが感染すると、命に関与することがある感染症です。
- 生後2か月から赤ちゃんへのワクチンが始まりますが、接種し終わるまでが重症化しやすい時期です。
- 海外のワクチンTdapでは、妊婦さんに接種することで、生まれてくる赤ちゃんが重篤な百日咳にかかるリスクを減らすことが確認されています。
- 日本のワクチンDTaPで予防効果は検証されていませんが、妊娠や赤ちゃんに不利益な副作用はなく、同じように赤ちゃんに免疫を渡すことができるため、同じような効果が期待されています。
- 日本の小児科学会ではワクチンを推奨しており、産婦人科学会も妊娠時の使用を可能としています。

お母さんと赤ちゃんを守るワクチン

任意接種

インフルエンザワクチン

接種時期：妊娠全期間

- インフルエンザは毎年冬季に流行します。
- 赤ちゃんや妊婦さんでは重症化しやすく、妊婦さんが罹患すると早産が増えることも知られています。
- 妊婦さんがワクチンを打つことで、妊婦さんが重症化するリスクが減り、生まれてくる赤ちゃんの感染も予防することにつながります。
- 不活化ワクチンが推奨されており、経鼻弱毒生ワクチンは接種できません。

任意接種

新型コロナワクチン

接種時期：妊娠全期間

- 新型コロナウイルスは、基礎疾患のある妊婦さんで重症化しやすいことが知られています。
- 妊娠中に感染すると早産のリスクが高くなることも報告されています。
- 妊婦さんへの接種について、ワクチンの安全性と重症化予防効果、赤ちゃんへの免疫の受け渡しが確認されています。
- 日本産科婦人科学会は、重症化リスクのある基礎疾患をもつ妊婦さんに接種を推奨しています。
- 赤ちゃんへの抗体移行などの母子免疫効果を期待する場合も、主治医と相談のうえ接種を検討できます。



国立国際医療センター 産婦人科外来 トラベルクリニック



● 本資料は国立国際医療センタートラベルクリニックHP内お役立ちリンク(非医療者向け)サイトから確認できます。

<https://travelclinic.jihs.go.jp/021/index.html>

(2026年4月作成)